

case.4 仕事と子育てを両立する

2人で協力し、1人の時間をご褒美に

中野智司さん(なかのさとし・39歳)・智子さん(ともこ・40歳)

郵便局員の中野智司さん(39歳)と、看護師の智子さん(40歳)夫妻は結婚7年目。長女、恭果ちゃん(6歳)と長男、誠士君(3歳)の4人家族だ。

智さんは、市内のさわ病院精神科に勤務する。誠士君の小学校入学まで、午前9時30分～午後4時30分の勤務。通常勤務と比べ1時間短縮されているとはいえ、ほぼ1日だ。主に認知症患者の病棟を担当し、褥瘡(じょくそう=床ずれ)の処置や、食事、入浴介助…と、献身的に動き回る。

その間、恭果ちゃんは幼稚園、誠士君は保育所で過ごす。勤務を終えて白衣を着替えると、大急ぎで自転車をこぎ2人のもとへ。智司さんの勤務時間が不規則なため、送り迎えは智さんの役割だ。

「特にきっちりと話し合ったわけではなく、その時その時でできることをどちらかがやっているうちに『自然に、分担ができてきている感』と智子さん。夕食は早く帰った方が作り、子どもたちのお風呂と寝かしつけは智司さんが担当する。

子どもたちと接する時間が少ない分、年に3回、家族旅行でスペシャルな時間を過ごす。6月に和歌山、夏に四国、冬は北海道。毎年、行き先は同じだ。「北海道は、雪で思い切り遊ばせてやりたい。和歌山と四国は、穏やかな気候が好きなんです」。

智さんは短大卒業後に就職したが、看護師になる夢をかなえるため、看護学校に再入学。27歳

で看護師になった。智司さんとの出会いは、社会人のソフトボールサークル。結婚を意識するようになった時も仕事を辞めることは考えられなかったという。智司さんも「2人で働いた方が生活楽やん」とあっさり(?)共働きが成立した。

1日の終わりの晩酌が「幸せ」

「産前産後の休暇や育児休業がきちんと取れて、協力的な職場はありがたいです」。それでも体力的に決して楽ではなく、イライラして余裕がなくなることもある。

そんな智子さんを思いやり、智司さんは月に1、2度子どもたちを連れて自分の実家へ泊まりに行く日を作った。『ご褒美』の1人の時間は、普段できない片付けなどで終わってしまうことも多いが、ホッと一息つけるのも確か。智司さん自身も、スケジュールをやり繰りしながら、短くても1人になれる時間を作り出す。そこは『自然に、ではなく意識的に1人の時間を大切に』する。

「2人とも保育所や幼稚園で元気に過ごしてくれています。触れ合える時間は短いかもしれませんが『カカ(お母さん)、トト(お父さん)大好き〜』って言ってくると胸がキュンとなりますね」。

1日の終わり、夫婦で晩酌をする時が「幸せなひとときです」と声をそろえた。

10年後20年後の
未来図を
探して
Interview

智子さんの大切なもの
1 家族
2 パートナー
3 仕事

智司さんの大切なもの
1 子ども
2 息抜き
3 生活



キッチンでお茶の準備をする、中野智司さん、智子さん夫妻、恭果ちゃん、誠士君もお手伝い



毎年冬には家族で北海道へ



子育てのサポートが必要なら

取材
担当

仕事を選ぶときには職場環境もポイント

子どもの体調不良の際など急なシフト変更にも対応してくれる職場環境に驚いた。看護師さんの世界ではよくあることらしい。仕事を選ぶときには子育てと両立できる環境が整っているかも大事なポイントだ。(壺井恵美佳)

豊中市の施策

■自分の時間を楽しもう!

子育てに忙しいお父さん・お母さんが読書や調べものに集中できるよう、すてっぷでは保育付きライブラリーを行っています。子育て・生き方・再就職準備など役立つ資料も置いています。とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ・情報ライブラリー TEL06-6844-9735

■子育てサポートが必要なら

「子どもの送り迎えをしてほしい」、「子どもを預けてリフレッシュしたい」など、子育てのサポートが必要な人を地域で支え合う会員制の育児支援ネットワークがあります。とよなかファミリー・サポート・センター TEL06-6841-9383